

LOBO 調査

早期景気観測

11月 日商調査日 11月13日～16日
 当所調査日 11月13日～20日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査
 11月の全産業DI ▲9.7
 (前月比+0.8ポイント)

○中小企業の景況感

建設業は、受注が堅調な公共工事が下支えし、改善した。卸売業は、飲食・宿泊業からの飲食関連の引き合いが増加し、改善した。製造業は、自動車関連が好調な一方、円安による輸入部材の高騰で横ばいにとどまり、サービス業は、飲食・宿泊業で客足が回復基調にあるものの、エネルギー価格の高騰などによるコスト増で力強さを欠いている。また、小売業は、物価高による買い控えが継続し、悪化となった。原材料価格やエネルギー価格の高騰に加え、人手不足に伴う人件費の上昇など、コスト負担は増加が続いている。コストに見合う十分な価格転嫁が行えていない中、深刻な人手不足も続いており、中小企業の業況は足踏みが続いている。

○先行き

先行き見通しDIは▲13・6
 (11月比▲3.9ポイント)

クリスマスや年末年始を契機とした個人消費の拡大や、インバウンドを始めとする観光需要の回復が期待される。一方、長引く物価高で日用品などの買い控えが続く中、エネルギー価格の高騰や円安の伸長によるコスト増が企業収益を圧迫している。また、深刻な人手不足や価格転嫁への対応に加え、欧州・中国などの海外経済の鈍化や緊迫が続く中東情勢など、先行きの不透明感が拭えず、慎重な見方が続く。

【関東ブロックの業況コメント】

公共工事の受注が増えていることに加え、新規取引先の開拓を行ったことで、足元の売上は改善している。一方で、建設資材は輸入品が多いため、円安の伸長により負担するコストが増加しており、採算は悪化している(大工工事業)

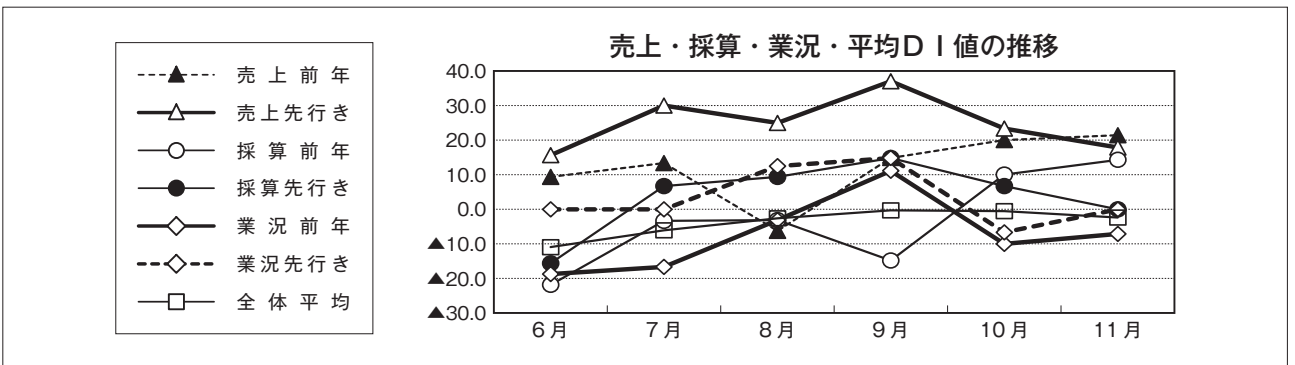
物価高・電気代の高騰で消費者の買い控えが続く中、嗜好性が高い生花の需要が減少しており、売上確保が難しい(生花小売業)

【景況感、各項目で減少傾向】

全体平均DIは▲2.4で前月に比べ▲1.8ポイントの悪化。項目別では、売上先行き▲5.4ポイント、採算先行き▲6.7ポイントの悪化が見られた。コメントには「従業員の賃金を引き上げたが工賃への転嫁が難航している」「(自動車一般整備業)や「公共工事が繁忙期を迎え、人手不足が見込まれる」(土木建築サービス業)といった賃上げや人手不足による影響が伺えた。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和4年		令和5年					
	11月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
売上前年	11.1	9.4	13.3	▲6.3	14.8	20.0	21.4	
売上先行き	14.8	15.6	30.0	25.0	37.0	23.3	17.9	
採算前年	▲29.6	▲21.9	▲3.3	▲3.1	▲14.8	10.0	14.3	
採算先行き	▲3.7	▲15.6	6.7	9.4	14.8	6.7	0.0	
仕入前年	▲77.8	▲71.9	▲80.0	▲65.6	▲74.1	▲66.7	▲67.9	
仕入先行き	▲70.4	▲65.6	▲73.3	▲62.5	▲66.7	▲60.0	▲67.9	
社員前年	33.3	25.0	33.3	31.3	22.2	23.3	28.6	
社員先行き	25.9	25.0	26.7	28.1	29.6	33.3	28.6	
業況前年	▲3.7	▲18.8	▲16.7	▲3.1	11.1	▲10.0	▲7.1	
業況先行き	▲3.7	0.0	0.0	12.5	14.8	▲6.7	0.0	
資金前年	▲11.1	▲9.4	▲3.3	▲3.1	▲3.7	16.7	3.6	
資金先行き	▲14.8	▲3.1	▲6.7	6.3	11.1	3.3	0.0	
全体平均	▲10.8	▲10.9	▲6.1	▲2.6	▲0.3	▲0.6	▲2.4	



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。